

・今年も一月十日（土）に土佐えびす祭が盛大におこなわれます。土佐えびすは、いつの時代から祀られるようになったのでしょうか

えびすとは・・・

夷・戎・蛭子・恵比須などと記す。

祭神については、これを蛭子尊と

するもの、事代主 命とするもの

の二説がある。

伊邪那岐・伊邪那美の二神が、高

天が原より淤能碁呂島に降り立

ち、契りを結んで生まれたのが水

蛭子（古事記）である。蛭子尊は

今も福神として盛大に祀られている。

「にしのみや えびす」

一方、事代主命は、大國主命

と

神屋楯比売命の間に生まれた神（古

事記）で出雲では魚取をする事代

主

を豊漁の神として祀り、大黒神（大

土佐恵比須物語



紙屋兵衛申者其頃勢州表工加み
商内二かよひ申 候 処其辺り二恵比須の尊體
を所持仕 候 仁御座候二 付達而所望
仕申 請罷 帰り・・・

この恵比須社は、伊勢方面に紙の商いに出か
けた土佐町（今の上土佐）の紙屋与兵衛が請
来したもので、創建は一六六五年（寛文五年）
四代將軍 徳川家綱の時代）ごろと思われるま
す。伊勢には神宮大麻（お札）や伊勢曆など紙
の大きな需要があり、紙屋与兵衛にとつては
大事な取引先であつたらうと思われます。曆
や大麻は、正月を過ぎるとすぐ翌年の準備に
かかりますから、与兵衛が伊勢に出かけたの
は正月早々だつたでしょう。ちよつと、伊勢

では十日恵比須が過ぎて、市仕舞いなどして
いたころではないでしょうか、それを瞥見し
た与兵衛がたつて所望、大和高取へ持ち帰つ
たといひます。

また一説には、

この恵比須さんは昔土佐村（下土佐）に佐々
木某という人があり、ある年二人の友人と共
に伊勢神宮に年越し参りをしました。宇治橋
を渡るとき、それまで何もなかつた三人の前
に急に恵比須が転げ込んで来ました。それを
拾つて持ち帰り、藩公植村駿河守家長候に申
し上げると、公は恵比須が我が藩の者のとこ
ろへ転げて来た和大いに喜ばれて、下土佐領
に祀らせることとなりました。伊勢から下つ
て来たので「クダリエビス」といひます。



恵比須神社覚書古川家文書、その他より